



樹と樹をつなげる新技術でナシづくりに



近年、ナシの産地では樹齢が30年を超える樹が増え、収穫量が減少しているため、新しい樹に植え替える必要があります。しかし、植え替えてから収穫量が回復するまでには10年もかかり、その期間は収入が減少するため、植え替えは進んでいません。また、おいしいナシをたくさん作るには、経験と技術が必要で、手間もかかります。

このような状況の中、世界に例のない新しい栽培技術「ナシの樹体ジョイント仕立て法」が發明されました。

◆ジョイント仕立て法とは

この技術では、苗木を直線状に果樹園に植え、隣の樹の方向に曲げた枝の先端を、隣の樹に接木によりつないでいきます。このように樹を連続



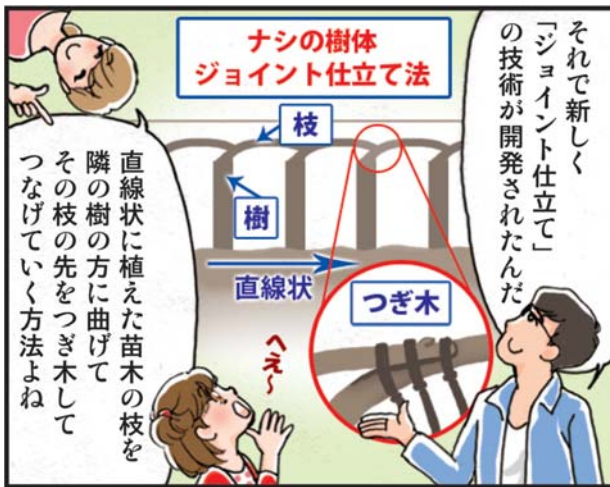
してつなげる技術を「ジョイント仕立て」と言います。

◆ジョイント仕立て法の効果

ジョイント仕立てをすることにより、樹をつないだ翌年には果実ができ、さらに次の年には本格的に収穫を開始することができますようになります。またジョイント仕

立てでは、同じ面積の果樹園に従来の3〜4倍の本数の苗木を植えるため、約5年で収穫量を回復することができます。

さらに、今までの栽培方法では、樹のまわりを1本ずつ回りながら作業しますが、ジョイント仕立て法では、つなげた樹は直線的で単純な構造なので、熟練した生産者でなくても、剪定（樹の



形を整えるために枝の一部を切り取る作業)などの管理作業が簡単で、収穫作業も効率良く行うことができ、作業時間が短縮されます。

さらに、樹と樹が連結されているため、ナシの甘さや大きさのばらつきが小さくなり、品質がそろったナシを生産できるというメリットもあります。